

# 全 体 報 告 書

事業名称	京の食文化すぐき調査研究発信事業
現状・課題	すぐき漬けの材料となるすぐき菜を栽培する農地は、賀茂川の肥沃な砂質土壌の扇状地である北区上賀茂とその周辺にあり、市街化区域内にある。これまでから、生産緑地として維持され、すぐき作付面積は1973年30.9ha、2023年は25.9haとやや減少傾向にある。上賀茂地域の農家戸数は1973年に307戸だったが、2023年には226戸に減少、そのうち、すぐき農家戸数は1979年203戸だったが、2023年は77戸と減少した。（京都市農林業統計資料（農業編）） また、すぐき漬けに係る作業の効率化、労力の低減、作業スペースの縮小等のために、「天秤押し」がプレス機に置き換わろうとしており、天秤押しで本漬けを行う農家も現在は少人数である。今後、天秤押しによるすぐき漬け技術や、時候熟れによるすぐき漬けの生産技術などについて、その伝統を継承するために、必要な対策が求められる。
事業目的	すぐき生産農家の高齢化や農業離れによるすぐき生産の減少をはじめ、「天秤押し」などによる伝統技術の継承に課題が生じていることから、現状と課題を把握し、すぐきの文化的価値を明らかにすることによって、すぐき生産の存続と伝統技術の継承を図っていく。 また、食文化、民俗文化財、農業に関する各外部有識者にとどまらず、すぐき農家やJAという生産者サイドも主体的に参画することにより、生産者、学識経験者、行政（農政、文化財）が一体となった効果的な施策の展開が期待できる。
事業概要	事業区分1：調査研究（文化的価値の明確化） ①有識者検討会の開催 調査内容や方法について議論し、調査等に意見を反映 ②文献・実地調査の実施（大学と連携） ア すぐき生産農家へのアンケート調査及び聞き取り調査 すぐき生産体制及び従事人数、生産状況、道具の利用状況、伝統的技術の継承状況、保存している伝統的用具及び関連文書の有無、継承等に関する課題 等 ※アンケート調査：すぐき農家全軒を対象 聞き取り調査：アンケート調査を踏まえ対象を抽出し実施（記録写真撮影も予定） イ 歴史等の調査 専門家等がこれまでに調査された論文などの関連文書の調査、聞き取り情報の取りまとめ ③調査報告書・記録動画等の作成 報告書の作成、記録動画の作成、食文化ストーリーの作成  事業区分2：保護継承 ①市民講座の開催 ・市民向けすぐき学習会の開催 ②伝統的技術の継承や拡大への支援 ・継承団体による伝統的技術の継承に向けた取組への支援  事業区分3：発信等 ①すぐき映像等発信 ・すぐきPR動画、パンフレットの作成 ・JA主催の京ベジフェスタをはじめ、首都圏イベント等でのPR
事業全体での成果・効果	すぐき生産の現状と課題を調べるため、すぐき農家を対象にアンケートを実施し、すぐき農家の営農状況や、栽培・製造・販売等に関わる実態、すぐき造りや伝統技術の継承に関わる課題等が明らかになった。 また、すぐき農家や継承団体である「京の上賀茂すぐき倶楽部」にヒアリングを行い、活動状況を始め、自家の味の認識や交雑防止の工夫、製造道具、地域の課題等が明らかになった。 販売店へのヒアリングでは、すぐきの卸先である漬物販売店の意向や農家との関係等、また、学識経験者からは食文化におけるすぐきの位置や独自性、振興の要件等についての指摘があった。 調査研究結果の報告を兼ねた市民フォーラムでは、200名の目標に対し400名を超える参加があり、7割を超える来場者から「大変満足」「満足」というご意見をいただくなど、市民の皆様とすぐきの持つ文化的価値を共有できた。 また、市民フォーラムで上映したすぐきの栽培・製造過程を記録した映像をJA京都市のホームページで配信したところ、配信開始から1か月で視聴回数は2万回を超えている。 その他、歴史、伝統的技術等をまとめたパネルやパンフレットを作成し、市民向けイベントや市民フォーラム、各所でのイベントで活用した。  ※目標に対する達成度 すぐき生産農家の維持      目標    R6年    75戸 

# 事業別報告書

事業名称	京の食文化すぐき調査研究発信事業
区分	(1) 調査研究事業
事業内容	<p>(事業概要)</p> <p>①有識者検討会の開催(3回)          ②文献・実地調査の実施          ③調査報告書・記録動画等の作成</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>1 有識者検討会の開催(3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京の食文化すぐき調査研究発信事業第1回有識者検討会              日時：令和6年7月30日(火) 午後2時から4時              場所：京都市農業協同組合本店              出席者：有識者4名、協力行政機関他 計24名              内容：①アンケート・ヒアリング調査及び文献調査について              ②すぐき記録映像の作成について              ③市民講座の開催について</li> <li>・京の食文化すぐき調査研究発信事業第2回有識者検討会              日時：令和6年11月26日(火) 午前10時から12時              場所：京都市農業協同組合本店              出席者：有識者4名、協力行政機関他 計24名              内容：①アンケート・ヒアリング調査結果の中間報告について              ②報告書構成案について              ③すぐき記録映像撮影の進捗状況について              ④市民講座開催計画について</li> <li>・京の食文化すぐき調査研究発信事業第3回有識者検討会              日時：令和7年2月27日(木) 午前10時から12時              場所：京都市農業協同組合本店              出席者：有識者4名、協力行政機関他 計24名              内容：①調査結果の取りまとめ及び調査報告書(案)について              ②ストーリー作成(案)について              ③すぐき記録映像について</li> </ul> <p>2 文献・実地調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐき農家等へのアンケート調査の実施              配布数 46戸 回収数 42戸 回収率 91.3%</li> <li>・ヒアリング調査              継承団体1件 すぐき農家7件 販売店1件 学識経験者2件 計11件(延べ18名)</li> <li>・文献調査</li> </ul> <p>3 すぐき記録映像の撮影</p> <p>播種、間引き、収穫、荒漬け、本漬け、室入れ、室出し、販売の各工程を撮影・編集          ロングVr(イベント等上映用約14分)及びショートVr(YouTube等配信用約3分)作成</p>
成果・効果	<p>すぐき生産の現状と課題を調べるため、すぐき農家を対象にアンケートを実施し、すぐき農家の営農状況や、栽培・製造・販売等に関わる実態、すぐき造りや伝統技術の継承に関わる課題等が明らかになった。</p> <p>また、すぐき農家や継承団体である「京の上賀茂すぐき倶楽部」にヒアリングを行い、活動状況を始め、自家の味の認識や交雑防止の工夫、製造道具、地域の課題等が明らかになった。</p> <p>販売店へのヒアリングでは、すぐきの卸先である漬物販売店の意向や農家との関係等、また、学識経験者からは食文化におけるすぐきの位置や独自性、振興の要件等についての指摘があった。</p> <p>これまで、製造工程については荒漬けや本漬けといった部分的な映像しか記録されていなかったが、本調査により栽培から加工・販売まで一連の工程を記録できたことで、すぐき製造の「わざ」を明らかにすることができた。</p>

# 事業別報告書

事業名称	京の食文化すぐき調査研究発信事業
区分	(2) 保護継承事業
事業内容	<p>(事業概要)</p> <p>①市民講座の開催 (1回)</p> <p>②伝統的技術の継承や拡大への支援 ・令和6年8月～令和7年1月</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>1 市民講座の開催 京の食文化「すぐき」市民フォーラム ・日時 令和7年1月18日(土) 午後1時30分から午後4時 ・会場 京都府立 京都学・歴史館 大ホール ・来場者数 410名 ・内容 ①すぐきができるまで 記録映像上映 ②講演報告 ・文化財と食文化 文化庁文化財調査官(食文化部門) 大石 和男 ・すぐき生産の現状と課題 ～すぐき農家アンケート調査結果より～ JA京都市営農経済部・株式会社シー・ディー・アイ ・すぐき漬けの未来 ～食材としての活用とグローバル展開の可能性～ すぐき漬森益/すぐき研究家 森田 早映子 ③パネルディスカッション コーディネーター ふじのくに地球環境史ミュージアム 館長 佐藤洋一郎 パネリスト 京都産業大学文化学部京都文化学科 教授 村上忠喜 京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授 中村貴子 京都市農業協同組合上賀茂支部 支部長 藤井 健 すぐき漬 森益 森田早映子 ※ 展示 すぐき天秤漬け実物展示及びすぐき啓発用4枚組サインボード ※ 来場者先着200名にすぐき進呈 ※ 来場者アンケート 配布枚数 300枚 回収枚数 243枚(回収率81%)</p> <p>2 伝統的技術の継承や拡大への支援 京の上賀茂すぐき倶楽部の活動支援</p> <p>① 栽培技術講習会(2回) ア)日時 令和6年8月27日(火) 午後7時から午後9時 場所 京都市農業協同組合上賀茂支店 出席者 すぐき倶楽部会員他すぐき生産農家 計19名 内容 すぐきに係る病害虫防除講習会への講師派遣 イ)日時 令和7年2月26日(水) 午後7時から午後9時 場所 京都市農業協同組合上賀茂支店 出席者 すぐき倶楽部会員他すぐき生産農家 計22名 内容 農薬研修会への講師派遣</p> <p>②上賀茂神社での市民向け発信活動支援 ・令和6年12月から令和7年1月 すぐき市民啓発用4枚組サインボードの展示、樽神輿、天秤押し実物展示 すぐき奉納行事「すぐき道中」令和6年12月8日(日)運営支援</p>
成果・効果	調査研究結果の報告を兼ねた市民フォーラムでは、200名の目標に対し400名を超える参加があり、7割を超える来場者から「大変満足」「満足」というご意見をいただくなど、市民とすぐきの持つ文化的価値を共有できた。

# 事業別報告書

事業名称	京の食文化すぐき調査研究発信事業
区 分	(3) 発信等事業
事業内容	<p>(事業概要)</p> <p>パンフレット等を活用した啓発及び記録映像等の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐきPR動画及びパンフレットの作成</li> <li>・JAの広報紙「いっぷく」「Link」を活用した啓発</li> </ul> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>1 すぐき啓発用パンフレット、パネルの作成</p> <p>すぐきの由来や伝統技術を紹介したパンフレット「京都上賀茂特産すぐき」等を活用し市民等向けイベントで啓発</p>  <p>① 京ベジフェスタ2024 (主催: JA京都市)</p> <p>日時 2024年11月16日 (土)</p> <p>場所 梅小路 公園</p> <p>来場者数 約12,000人</p> <p>内容 すぐきの天秤漬け実物展示及びパネル掲示の他、パンフレットを配布し、来場者にすぐきの伝統的技術等を紹介</p> <p>② 全国都市農業フェスティバル2025プレイベント (主催: 東京都練馬区)</p> <p>日時 2024年11月17日 (日)</p> <p>場所 東京都練馬区光が丘公園</p> <p>来場者数 約30,000人</p> <p>内容 「京都上賀茂特産すぐき」のパネルの掲示及びパンフレットを配布し、首都圏で「すぐき」をPR</p> <p>③ パネル展示</p> <p>期間 2024年12月～2025年2月</p> <p>場所 上賀茂神社境内</p> <p>内容 京の上賀茂すぐき倶楽部が実施した樽神輿、天秤押し実物展示と合わせてパネルを掲示、観光客へのPRを行った。</p>  <p>2 プロモーションビデオによる啓発</p> <p>調査事業で作成した記録映像「すぐきができるまで」を活用し、市民フォーラム及びJA公式ホームページ等で配信した</p> <p>ロングバージョン (約10分) 及びショートバージョン (約3分) を作成、(ロングバージョンは、日本語版、英語版の2か国語版を作成)</p> <p>日本語字幕版 <a href="https://youtu.be/l6w6n5Vjv0g">https://youtu.be/l6w6n5Vjv0g</a></p> <p>英語字幕版 <a href="https://youtu.be/JdIB7vVaZdQ">https://youtu.be/JdIB7vVaZdQ</a></p> <p>3 JA広報紙「いっぷく」(組合員向け)、「Link」(一般市民向け)により、すぐきの持つ文化的価値等を啓発</p> <p>JA京都市公式HP <a href="https://ja-kyotocity.or.jp">https://ja-kyotocity.or.jp</a></p>
成果・効果	<p>すぐきの歴史、伝統的技術等をまとめたパネルやパンフレットを作成し、市民向けイベントや市民フォーラム等、各所でのイベントで掲示、配布した他、JA広報紙による啓発により、すぐきの認知度向上が図れた。</p> <p>すぐきの栽培から製造・販売までを記録した動画「すぐきができるまで」のロングバージョン(ナレーション、テロップ未収録版)を2025年1月18日開催の市民フォーラムで上映したほか、JA京都市のホームページで配信 (YouTube、Instagram、Facebook) したところ、YouTubeでは配信開始から1か月間で視聴回数は2万5千回を超えており、すぐきの認知度向上とすぐきの持つ文化的な価値を発信、共有できた。</p>